



加藤 静一

長野県テニス協会

30周年によせて

長野県テニス協会

会長 加藤 静一

過ぎ去った30年を回顧して私自身の思い出も多彩であるが何よりも先ず創立当初の会長折井仲三郎氏以下山本清一郎、沓掛源生、呉 真一その他の諸氏の熱意に対して感謝と敬意を表したい。

特に次の会長山本清一郎氏は優秀なプレーヤーであったと同時に我々のホームコートであった水汲の4面に続いて旭町、開智などのコート整備に献身的に尽力され、北信越や日本テニス協会とも連絡を密にして我々の協会の存在を認知させた功績は大であったのに報いられる所少なく壮年にして逝去されたことは哀悼にたえないものがある。

初期の10年間に我々を育成して下さった大恩人として朝日生命藤川会長以下のテニス教室を忘れることは出来ない。

毎年、松本市や上田市で会社の選手や鶴原謙造、宮城黎子など最高級の顔ぶれで数日に亘る奉仕的講習会を開催して頂いた御厚情に対して改めて心から御礼申し上げる次第である。

由来テニスは王様のスポーツであり、スポーツの王様であると言われるが今日のように普及大衆化したブームが来るとは予想外の盛事と欣快たえない所であるが半面に勝敗に拘泥し過ぎたマナーの低下なども往々に見られることは戒心すべきであり、あくまでも紳士淑女のスポーツとしてフェアプレーの心掛けを堅持すべしと強調しておきたい。

近年はいわゆるジュニアの育成強化に力を入れて来た結果、高校生などで全国的水準に入る選手も輩出するようになったことは誇らしい成績であるが他面に我々は各地方都市の後進的協会の発展に協力し底辺の拡大に努力することも大切な使命であると考えます。

我が長野県県下のテニス人口も驚異的に増大しコート施設の整備充実も逐年良好となっている状況は関係者各位の熱意によるものと感謝すると共に30年を1区切りとして将来一段の躍進を期待したいものである。

老いも若きも

テニス楽しむ

五月晴れ